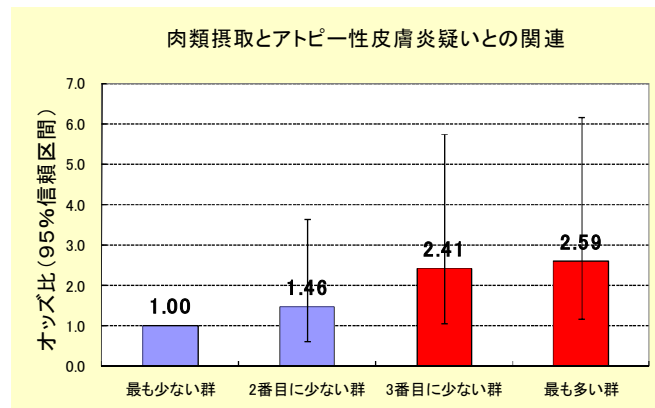


大阪母子保健研究 3-4 ヶ月時追跡データの結果 妊娠中肉類摂取と乳児アトピー性皮膚炎疑いとの関連

背景：妊婦の脂肪酸摂取が胎児の免疫系の発達に影響している可能性があります。妊娠中の各種脂肪酸及び脂肪酸を多く含む食品の摂取と生まれた子の 3-4 ヶ月時におけるアトピー性皮膚炎疑いとの関連を調べました。

方法：大阪母子保健研究のベースライン調査と生後 3-4 ヶ月時に第 1 回追跡調査に参加した 771 組の母子を対象としました。医師からアトピー性皮膚炎と診断されたか疑いがあるといわれた、もしくは局所ステロイド治療を受けた場合、アトピー性皮膚炎疑い有りとして定義しました。解析では、母親の年齢、妊娠週、年収、両親の教育歴、両親のアレルギー既往、妊娠時の布団のダニ、妊娠時居間掃除、妊娠時台所カビ、妊娠時食事変容、ベースライン時季節、年上の兄弟数、性別、出生時体重、母乳摂取、乳児の入浴を補正しました。

結果：アトピー性皮膚炎疑いの有症率は 8.4% でした。摂取量によって 4 等分すると、肉類摂取が最も少ない群に比較して、3 番目に少ない群及び最も多い群で有意にアトピー性皮膚炎疑いのリスクを高めました。結果因子をアトピー性皮膚炎と確定診断された 35 名に限定した場合



でも、同様の結果が得られました。卵、乳製品、魚介類、飽和脂肪酸、一価不飽和脂肪酸、 $n-6$ 系不飽和脂肪酸、リノール酸、 $n-3$ 系不飽和脂肪酸、 α -リノレン酸、エイコサペンタエン酸、ドコサヘキサエン酸、コレステロール摂取および $n-3/n-6$ 比とは特に関連を認めませんでした。

結論：妊娠中の肉類摂取は生まれた子の乳児期アトピー性皮膚炎のリスクを高めるのかもしれませんが。

出典： Saito K, Yokoyama T, Miyake Y, Sasaki S, Tanaka K, Ohya Y, Hirota Y. Maternal meat and fat consumption during pregnancy and suspected atopic eczema in Japanese infants aged 3-4 months: The Osaka Maternal and Child Health Study. *Pediatr Allergy Immunol.* 2010; 21: 38-46.